県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座

川をめぐる文学と美術

広島はもともと三角州にできた街であり、川は今も私たちの生活の中に自然と溶け込んでいる存在です。しかし実は、川は文明や文化を育み、私たちの暮らしを豊かにしてくれるものでもあります。本講座ではこの「川」をテーマに、その魅力を地理、文学、美術の側面から探ります。

【日　時】　2019年　第1回：6月29日（土）10:00～12:10
第2回：7月6日（土）10:00～12:10
第3回：7月20日（土）10:00～12:10

【会　場】　サテライトキャンパスひろしま（広島市中区大手町1-5-3　県民文化センター5階）

〔第1回〕6月29日（土）	10:00～11:00	流域の暮らしを創り出す川	県立広島大学名誉教授 酒川　茂
	11:10～12:10	印象派が描いたセーヌ河と近代生活	ひろしま美術館 学芸課長 水木　祥子
〔第2回〕7月6日（土）	10:00～11:00	イギリス文学にみる川への想い	県立広島大学人間文化学部教授 天野　みゆき
	11:10～12:10	風景画における川の表彰 ―イギリスを中心に―	ひろしま美術館 学芸員 森　静花
〔第3回〕7月20日（土）	10:00～11:00	アメリカ文学における川のイメージ	県立広島大学人間文化学部准教授 栗原　武士
	11:10～12:10	19世紀フランスの川辺の風景	ひろしま美術館 学芸員 農澤　美穂子

【募集人数】　80名

【受 講 料】　無料

【対　象】　どなたでも

【申込方法】　往復はがきの往信面の裏に①郵便番号、②住所、③お名前（ふりがな）、④電話番号を；返信面の表に受講される方の郵便番号、住所お名前（「○○○○」様）をご記入の上2019年6月14日（金）（消印有効）までに次のところにお送りください。

〒734-8558　広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「川をめぐる文学と美術」講座係
電話（082）251-9534

※受講案内は締切日以降にお届けします。なお、申込多数の場合は抽選となることがあります。
※申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

【主　催】　県立広島大学地域連携センター・公益財団法人ひろしま美術館

県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座

講座内容

酒川　茂 「流域の暮らしを創り出す川」

流水をたたえる川は，人々に多くの恵みをもたらしてきました。時には厳しい一面を見せることがあっても，住む場所を創り出し，食べる物を与え，行き来の道筋を通し，安らぎをもたらしてきた存在です。世界のいくつかの川を事例にあげ，地形，気候，産業，社会，景観などの点から，流域に暮らす人々との関わりを改めて考えてみましょう。

水木　祥子 「印象派が描いたセーヌ河と近代生活」

19世紀，パリを流れるセーヌ河は，都市で暮らす人々の生活に密着した存在でした。河には水浴場や船着き場が設けられ，洗濯船が浮かんでいました。また，郊外には鉄道の発達とともに行楽地が出現します。同時代の風景を描いた印象派の作品にみられるセーヌ河と近代生活の関わりをご紹介します。

天野　みゆき 「イギリス文学にみる川への想い」

イギリスの人々は川と深い関わりを持ちながら生きてきました。川は文明の発展に重要な役割を果たし，川の存在や川との関係は人々の考え方に大きな影響を与えました。イギリスの詩や小説，エッセイには，人々の川への想いがどのように表現されているかを考察します。

森　静花 「風景画における川の表象―イギリスを中心に―」

絵画に川を描くことは，つまりは風景を描くことです。風景を画題として捉えるこの感覚が一般化されたのは，18世紀以降とされています。印象派を生むひとつのきっかけとなった，19世紀イギリスを代表する二人の風景画家，J.M.W.ターナーとジョン・コンスタブルを中心に，風景画における川の表象の歴史を辿ります。

栗原　武士 「アメリカ文学における川のイメージ」

大陸国家であるアメリカにとって，川は魚という自然の恵みをもたらしてくれるだけでなく，運輸・交易のための重要な交通路でもあり，アメリカの人々にとって非常に身近な存在だったといえます。そのような川は，アメリカ文学においてどのように描かれてきたのでしょうか。牧歌的な釣り文学から政治的メッセージを含む小説まで，バラエティに富んだアメリカ文学の川のイメージを紹介します。

農澤美穂子 「19世紀フランスの川辺の風景」

19世紀以降のフランスではセーヌ河やその河口および支流を舞台にバルビゾン派や印象派など多くの画家たちが制作を行いました。きらめく水面と木々の生い茂る様が描かれた穏やかな風景画に見られる，画家たち独自の視点と制作方法についてご紹介します。